No. 3.

11年1月23日

實業補習教育論（下）

時勢は益々之が振興を必要とす

協調會常務理事　田澤義鋪

列强の實例

前にも述べたるが如く世界に於ける補習教育の濫觴は獨逸である。一代の碩學ケルシエン、タイナーが、ミユンヘン市の教育課長の身を以て補習教育の施設に當るや、其の效果直に獨逸各聯邦に認められ、今より十數年前既に其の多數は之を義務教育となし一定年齡に達せざるものは、其の父兄及雇主に義務を負はして強制教育を施すことゝしてゐる。而して獨逸には普通補習學校と職業補習學校の二種類あるが、獨逸の青年勞働者の多數は、初め三年の普通補習學校を卒り、次で三年間職業補習學校に通學するを普通としてゐるらしい。義務としては八ケ年の小學校教育と三ケ年の補習學校だが、事實は六ケ年の補習教育を受けるのが多い即ち前後合して十四ケ年、恰度、丁年に達する迄教育を受けることゝなつてゐる。而して其職業課目は極めて細部に分たれてゐて、ミユンヘン市の補習學校の如きは、五十餘の職業課目があると云ふことである。從つて獨逸の職工は何れも其技術優秀で、其製品は戰前既に世界の市場を壓倒せんとするの勢を示した。若し、獨逸が平和政策を執つて、産業を以て世界に覇を爭ふたならば、今日の悲慘なる境遇に引き換へ、恐らく世界の市場を席捲してゐるであらう。英佛は戰前既に獨の補習教育の效果に驚嘆し、夫々調査する所があつたが、一千九百十七八年の頃大戰正に酣にして、倫敦の空には飛行機の爆彈飛び、巴里は長距離砲の炸裂に脅威を受つゝある中に、早くも戰後經營の中心が國民能率の增進にあるを思ひ、兩國とも申合したが如く、補習教育義務教育案を議會に提案し、何れも審議の結果、多少の修正を經て成立してゐる。斯の如き歐洲諸國の狀況に比し、我官民が補習教育に極めて冷淡なるを思ふとき、國家の將來甚だ憂ふべきものあるを思はざるを得ない。我にありては僅に六ケ年の義務教育、彼にありては小學校と合して、十一ケ年乃至十二ケ年の義務教育あり。國民の總能率に於て甚だしく劣る所あるを免れないのは寧ろ當然である。斯の如くんば我國將來の産業が再び歐洲の壓迫に遭遇すべきこと火を睹るよりも明かなりと云はざるを得ぬ、政府も市町村も國民も共に大に反省する所がなければならぬ。

四、補習教育の内容

以上述べ來れるが如く重大なる意義を有する補習教育は、初に云へるが如く、普通教育の補習、職業教育及公民教育の三者を内容として包含しなければならぬ普通教育の補習と云ふは即ち小學校に於ける教育の延長を云ふのである。國語算術等を中心にし地方の事情により其他の學課を加ふることあるべきも、要するに國民日常必須の學課を授くる譯であつて、此點は別に困難となることも多くはない

次に職業教育であるが、日本の補習教育は此の點に於て甚だしく劣つてゐるやうに思ふ。農村に於ては農業、都市に於ては商工業であるが、現在の補習教育は何れも徹底してゐない嫌ひがある。例へば農事補習教育に於て最も振はない學科が農業科だと云ふやうな話をよく聞くことがある。又工業補習學校等に於ても、職業課目が少くて各種の職業に關して智識と技術を與へる點まで進步してゐない建築、應用科學、機械、電氣等の學科が揃つてゐるのは、まだよい方であるが、更に進んでは、其の中の細部に涉つて各別に教授さるゝ所まで進まねばならぬ。ミユンヘンの補習學校に理髮科があつて床屋の小僧達が毛髮の皮膚の衞生及刄物の扱方、消毒の方法等を教つてゐることを考ふれば、日本の補習學校が極めて幼稚なるを思はねばならぬ。そして職業科目は何うしても專門の先生がゐなければならぬ。小學校の先生が教科書を辿つて、農業や商業を教へてゐる現狀を何うしても打破しなければならぬ。

第三に公民教育であるが、此の方は日本の補習學校に於て特に閑却されてゐるやうに思ふ。抑公民教育と云へば市町村の自治體に關することのみ教ふる學科と考へてゐる人々が多いが、余の此語を用ふる意味は更に廣汎なものである。所謂國民の公的生活、換言すれば國家生活社會生活に必要なる智識と德操とを授ける學科を指稱してゐるのである。市町村の自治體に關することも勿論包含するが、更に國體政體に關すること地方行政の中で國民の地方生活に密接なる關係あるもの、更に進んでは社會問題に關する基礎智識も此の課目に於て教授するの必要があらう。要するに之等の智識とは、國民の公生活に於て極めて重要であるが、小學校に於ては充分に之を教授する時間がない。而かも國民全般に必要なる智識であるから、之を補習教育に於て教授することが、最適切であり且つ必要である。

現代社會の要求する補習教育は以上三つの要素を併せ有するものでなければならぬ。此三者一を缺けば國民の大多數を教養する補習教育としては不充分たるを免れないと思ふ

五、北九州に於ける補習教育

我國の補習教育は漸次普及し改善しつゝあるには相違ないが、現在に於ては普及の點に於ても、內容の點に於ても極めて遺憾な點が少くない。補習學校が一つもない市町村が尙澤山あるが之等は到底文化的國家の教育施設として論ぜらるゝ資格はないと思ふ。余は昨夏北九州を視察したが、門司より折尾に至る盛なる工業地に於て工業補習教育の行はれ居らざるを見て實に遺憾に堪えなかつた。僅に八幡の製鐵所に職工養成所等あり直方に鑛山學校あるのみとは如何にも心細い感じに打たれざるを得なかつた。北九州數十萬の職工中青少年も決して少くないことゝ思はるゝが之等の多數の人々が何等教育を受ける施設のないと云ふことは、如何にも聖代の恨事である。此の地方の如きは、會社工場等に專門家も多く、從つて優秀なる教師を得ることも最も容易なる狀勢にあるのであるから、心ある識者は幸ひに意を此邊に用ゐ一面は青年勞働者の向上に資し、一面は地方工業發達に貢獻し、延いて國力の充實に寄與しなければならない。今や我國は國際場裡に於て益々樞要なる地步を占むるに至つた。此の地步を確保し向上せんとするには補習教育の振興が重要なる方策の一たる事を銘記せられん事を希望して止まざるものである（了）